

大雪山高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ防除の考え方について 【概要】

第1章 背景及び目的

- 大雪山国立公園の高山帯へのセイヨウオオマルハナバチの侵入と定着を防ぐために必要な考え方を提示することにより、関係者による対策を促進。

第2章 セイヨウオオマルハナバチの生態

- 生態に関する基礎的な知識を解説（女王が3月末～5月上旬に越冬明けして単独で営巣、働きバチ産卵。7月～9月ごろ繁殖虫（新女王・オス）を出産等）。

第3章 大雪山におけるセイヨウオオマルハナバチの現状と侵入、定着経路

- 2012～2013年に高山帯でまとまった数のセイヨウオオマルハナバチが確認。営巣・越冬の可能性が示唆されたが、その後は散発的な確認にとどまる。
- 高山帯への侵入経路は、移動の障壁となる森林を飛び越えて低地（上川盆地）から一気に侵入する、あるいは低標高地域からロープウェイや道路等のオープンスペースを伝って働きバチが高山帯に来訪することが推測。

第4章 大雪山におけるセイヨウオオマルハナバチの防除計画と実施

- 目標**：大雪山の高山帯はセイヨウオオマルハナバチの影響を排除すべき重要エリアとし、侵入定着させない。もし侵入定着してしまった場合は、できるだけ初期のうちに対応し、防除によって拡散を防ぎ、最終的に高山帯から根絶すること。
- モニタリングの重要性**：高山帯でセイヨウの侵入定着の監視、侵入定着が起こった場合でも分布拡大等の動向確認、防除活動の効果把握、評価し、改善するため、モニタリングは重要。
- モニタリングの方法**：所定の記録様式を基に、重要な山域（姿見・裾合平、黒岳、赤岳、美瑛岳、十勝岳）を中心に、コロニーが大型化する7月下旬～8月中旬に関係者により実施。
- 定着段階評価と対応**：別紙
- 野外で実証実験が進められる薬剤防除の解説と大雪山高山帯で実施する際の課題整理（合意形成等）。

第5章 おわりに（今後の課題）

別紙 大雪山高山帯におけるセイヨウオオマルハナバチ定着段階の評価

定着段階	評価基準	目標	駆除	モニタリング	その他
未侵入段階	セイヨウがまったく見られないか、分散個体（女王またはオスバチ）のみの確認にとどまる場合。	分散源である低地（上川盆地）の生息密度を抑制する	—	早期発見のためのモニタリングを行う	今後想定される事態に備える（有効な防除技術の確立や安全性の確認、周知等を含む）。
偶発的侵入段階	1～2の山域で、一時的に少数個体（1～2頭、カーストによらない。）が確認される場合。	定着初期段階へ移行する可能性を低減するための防除を行う。	捕獲による駆除	定着防止のためのモニタリングを行う	
定常的侵入（定着移行期）段階	複数の山域で、働きバチが複数回確認され、採餌場所として高山帯が利用されている場合。	早期対応により拡散（高山帯での二次的な分散）を阻止する	捕獲による駆除と薬剤を使用した駆除。ただし、薬剤による実施の判断に至るまでの間は、捕獲による駆除。	定着状況のモニタリングを行う	
分布拡大期（定着期）段階	多数の山域（3～5の山域）で働きバチが季節を通じて（7月中旬～8月下旬）恒常的に見られ、営巣の可能性が高い場合。また、1箇所以上で営巣が確認された場合。ただし、出現頻度（個体密度）は在来種に比べて（かなり）低い。	拡散を抑止する			
まん延期段階	広範囲にわたり、多数の働きバチが季節を通じて（7月中旬～8月下旬）恒常的に見られ、出現頻度は在来種に匹敵するレベルである場合。または、多数の山域で営巣が確認された場合。	優先順位を決めて拡散を抑止する。 ※生息密度が高い場所や保全の必要性が高い場所。		・定着状況のモニタリングを行う	